

相談支援事業の評価について

1 評価について

(1)目的

委託による相談支援業務の自己評価を行うことで、業務内容を振り返り、改善意識の向上や業務の適正化により、市全体の相談支援事業の充実及び質の向上を目指す。

(2)実施方法

- ①市が作成した評価シートに基づき、各委託事業所が自己評価を実施。
- ②市は提出された評価を点検し、業務の適正化を目的に必要な改善指導を行う。
- ③評価については、事業評価の公平・中立性を確保する観点から、自立支援協議会で報告を行い、評価結果の共有を行う。

2 取組実績と評価について

事業所名	基幹相談支援センター	地区相談ほくとう	地区相談ほくせい	地区相談なんとう	地区相談なんせい	発達障がい相談
委託法人名	社会福祉法人 六条厚生会	社会福祉法人 高志福祉会	社会福祉法人 九頭竜厚生事業団	社会福祉法人 六条厚生会	社会福祉法人 竹伸会	特定非営利活動法人 はるもにあ
独自の 取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員を対象に人材育成の研修を実施。また、自法人のホームページを活用し共同生活援助の情報提供を行った。(基幹相談業務) ・障がい者虐待防止法の理解促進のため、冊子を事業所に配布した。また、令和3年度の報酬改定により示された虐待防止と身体拘束廃止の取組について、事業所に説明した。(虐待防止センター) ・地域移行に関するアンケート調査を実施。(地域生活支援拠点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える関係性の構築するため、民児協定例会に定期的に参加した。 そのほか、地域から災害時を踏まえて、障がい種別ごとの関わり方の研修の要望が出てきたため、今後は他の委託相談支援事業所と協議し、研修を実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用に繋がるまでの各種手続きの際に専門用語を使わず分かり易い説明を行う。 ・関係機関にケースを引き継ぐ際に基本情報やアセスメントを計画相談の書式で作成し、情報共有を行う。 ・自宅への訪問や事業所見学同行支援を積極的に行い、相談しやすい雰囲気作りや安心感を持てるよう心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援体制の周知、顔の見える関係性作りのため、民生委員、介護保険サービス事業者、障害福祉サービス事業者向けに勉強会を実施した。 ・関係機関と連携して、福井市民向けに講習会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井市内外の情報収集(新規事業の情報、各サービス事業の動向など)を目的に法人内の研修や相談事業所ミーティングに参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員研修会にて発達障がいに対する理解促進のための研修会を実施。また、スクラム福井と支援方法や発達障がい支援の課題などを中心に情報交換会を実施している。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の研修は①雇用②虐待防止③触法者への対応④アウトリーチ支援をテーマに4回実施し、目標を達成した。 ・事業所向けの研修については5事業所に対し、実施したが、当事者向けの研修が出来なかった。 ・地域生活支援拠点において、利用人数、利用日数ともに前年度に比べ、増加したが、強度行動障がいなどの重度障がい者の受入れが出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターの研修や県の精神保健福祉従事者研修会などスキルアップに繋がる研修に多く参加するなど、質の向上について意欲的に取り組まれている。 ・特定相談への引継ぎの際に、口頭での情報提供が多く、引き継ぐ際の情報量が不十分なときが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行地域定着部会の事務局として、役割を果たしつつ、こども部会主催の研修に協力するなど、協議会運営に積極的に取り組んでいた。 ・市民や関係機関に対し、成年後見制度に関する情報提供を行うとともに、必要なケースは申立て支援を行うなど、制度の利用促進に繋がる取組をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅生活支援部会の事務局としての業務だけでなく、強度行動障害の研修会を企画・運営するなど、積極的に取り組んでいた。 ・自身のスキルアップのため、ひきこもりや児童相談に関わる研修を受講しており、質の向上について意欲的に取り組まれている。 ・PCのウイルス感染を防ぐため、兼用していた端末を単独利用に変更するなど、セキュリティの強化に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困難ケース(触法者やひきこもり、依存症等)の対応を行い、警察や弁護士などの関係機関と協働し、適切に支援している。 ・特定相談への引継ぎの際に、口頭での情報提供が多く、引き継ぐ際の情報量が不十分なときが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や家庭内で問題があるケースについて、小学生のときから途切れずに支援出来ており、必要に応じて他機関と連携するなど、適切に相談支援を行っている。 ・発達障がいの理解促進や人材育成として講演会の開催やコース別の研修を開催している。また、その場で出た意見を踏まえ、コースを新設するなど、多様なニーズに応えている。
対応実績 (令和3年度)	相談件数 231件／年 虐待通報件数 28件／年 拠点利用者数 6名(43日間)	相談件数 1,773件／年	相談件数 2,686件／年	相談件数 1,981件／年	相談件数 670件／年	相談件数 2,608件／年